

事業コード	H18-建-再-04		区 分	国庫補助 県単独
事業名	海岸侵食対策事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	海岸侵食対策		班 名	河川・海岸・防災 (tel) 018-860-2515
路線名等	本荘海岸		担当課長名	佐々木 卓郎
箇所名	由利本荘市松ヶ崎		担当者名	主幹兼班長 菅原 俊幸
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施策名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	07	施策目標(指標)名	海岸整備率

1. 事業の概要

事業期間	H04 ~ H23 (20年)		総事業費	20.6億円	国庫補助率	1/2
事業規模	延長L=1,420m 人工リーフL=350m×3基					
事業の立案に至る背景	冬期風浪や台風等により、汀線が後退したことにより、波の打ち上げ高も増大し、侵食被害が発生しており、背後地の施設などに被害を及ぼす恐れがある。このような状況から、海岸侵食及び越波による浸水被害を防止する整備事業が開始された。					
事業目的	秋田県の南西部に位置する当海岸の侵食を防止し、海岸沿いの松ヶ崎地区の住民を被害から防護する事を目的とする。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		2,059,000	2,059,000	0	
	経費 内訳	工事費	1,865,900	1,865,900	0	
		用補費	0	0	0	
		その他	193,100	193,100	0	
	財源 内訳	国庫補助	1,029,500	1,029,500	0	
		県 債	926,000	926,000	0	
		その他	0	0	0	
		一般財源	103,500	103,500	0	
	事業内容		人工リーフ3基	人工リーフ3基		
事業の進捗状況	全体計画 20.59億円 平成17年度末投資額 18.83億円 進捗率 91.5%					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	秋田21総合計画の施策目標「海岸整備率」の中核事業であり貢献度が高い。					
情勢の変化及び長期継続の理由	日本海沿岸における海洋工事は、冬期間の風浪及び波浪の影響により、施工期間が年間に半年程度しかないため期間を要している。また、海岸事業全体の予算上の制約により、期間を要している。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	海岸整備率				
	指標式	整備延長/ 海岸保全延長				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	56.7 %		データ等の出典	河川砂防課調べ	
	実績値 b	56.3 %				
達成率 b/a	99.3 %		把握の時期	平成18年3月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	当海岸の侵食速度は2.7m/年であり、未整備の場合、既設護岸及び海岸背後地が侵食するを危険を伴っている。 また、緩傾斜護岸の決壊に伴い、高潮の災害に見舞われる危険も有している。 さらに、地元ではゆとりの水辺空間として市民の利用度が高く、マリンスポーツから散策、釣り等の多岐にわたる利用が見られる。	28点
緊 急 性	当海岸は、年に3m近い侵食が進んでおり、防護地域には松ヶ崎地区の住宅が39戸有り、さらに秋田市と由利本荘地域を結ぶ唯一の国道である国道7号があることから緊急性は高いと言える。	18点
有 効 性	手段の妥当性、代替案立案等の可能性 当海岸における代替案としては『突堤』、『ヘッドランド』、『離岸堤』等が予想される。当海岸の事業においては、周辺海岸及び沿岸漂砂の陸下手側の侵食を助長させない事が重要である。また、当海岸近郊には松ヶ崎漁港が位置し操業を妨げない整備をする事が地元からの要望である。よって、人工リーフは、代替案と比して最も条件に適しかつ安価であり、整備済み区間について前浜が発達していることから妥当であると言える。	15点
効 率 性	費用対効果 事業の費用対効果は、1.03であり1.0以上となっている事から効率性は高い。 コスト縮減の状況 使用するブロックについて、費用比較を行い安価なブロックを使用し超すと縮減を図る。	9点
熟 度	地域の状況 人工リーフの整備により、砂浜が回復している事から侵食対策事業継続への期待は大きい。また、住家が近い事から要望は強い。 環境対策 海岸侵食により失われた海岸環境の再生を目指し、海中及び海岸における生態系の積極的回復あるいは創出のために、現状及び将来の生態系を良好に保全するように努める。	15点
判 定	ランク () 「緊急性」「有効性」等の評価から事業の重要性は高いと言える。また、国土保全の観点から早急な侵食被害の解消のために、コスト縮減及び計画的な事業執行を行い効率性を高め、平成23年度の完成を図る。	85点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業の継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 海岸事業

事業コード(H18-建-再-04)
箇所名 (由利本荘市松ヶ崎)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	防護対象となる面積・人口 1kmあたりの防護面積・人口	10ha以上又は100人以上	15	15	
		7ha以上又は70人以上	10		
		5ha以上又は50人以上	5		
		その他	0		
	災害発生時の影響 浸水・侵食戸数	10戸/km以上	10	10	
		5~9戸/km以上	7		
		5戸/km未満	3		
	事業箇所の現状 波浪、浸食等に対する防護性	波浪、浸食の被害があるなど防護は劣っている	5	3	
		被害は見られないが防護は劣っている	3		
		優れている	0		
計		30	28		
緊急性	海岸整備の緊急性 過去の被害実績	過去に2回以上の被害実績がある	5	5	
		過去に1回の被害実績がある	3		
		記録された被害実績はない	0		
	侵食の速度	1.0m/年以上	10	10	
		0.5m/年以上1.0m/年未満	7		
	生命財産の危険性	0.5m/年未満	3	3	
		背後地住民の生命財産に関わる被害が想定される	5		
		越波による冠水や砂浜侵食の被害が想定される	3		
計	生命財産の危険性は想定されない	0	20	18	
有効性	上位計画への貢献度 あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い	5	5	
		施策目標に間接的に貢献する	3		
		施策目標とは別にその他関連事業である	1		
	海岸整備に伴う有効性 災害の防止効果	越波災害防止効果が発現する	5	5	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
侵食防止の効果	砂浜侵食防止効果が発現する	5	5		
	侵食防止効果は現状と変わらない	0			
計		15	15		
効率性	事業の投資効果 費用便益比(B/C)	2.0以上	5	3	
		1.0以上~2.0未満	3		
		1.0未満	0		
	事業実施コストの縮減 該当項目数	3項目以上	5	1	
		2項目	3		
		1項目	1		
	当初計画との比較 当初計画事業費からの増減	無し	0	5	5
減少又は10%未満の増加		5			
10%以上30%未満の増加		3			
計	30%以上の増加	0	15	9	
熟度	環境との調和への配慮状況 環境保全への配慮	十分に配慮されている	5	5	
		配慮が不十分で検討している	3		
		特に配慮はない	0		
	地元との合意形成の状況 地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
		意向が一部で強いがまだ要件の同意を得ていない	1		
事業の進捗状況 進捗率	計画より進捗している	10	5		
	概ね進捗(90~100%未満)	5			
	計画より遅れている(90%未満)	3			
計		20	15		
合計			100	85	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		